

コースへの意見・要望

2014年度のアンケートで寄せられたコースへの要望や質問についてお答えします。より詳しいアンケートの結果は、結果の分析とともにコースのホームページに掲載しています。

Q.「授業数を増やして欲しい」との要望がありました。

A 当コースでは、学生が自ら進んで主体的に物事を考え、積極的に行動できるように配慮された教育システムの実施を心がけています。このため、機械的に授業のコマ数や宿題・レポートなどの量を増やし、それらを学生に強いることを「よし」と考えていません。まずは、選択している授業の予習や復習の時間を十分に確保して欲しいと思います。十分に確保し、それでも空き時間ができる場合には、自分の興味がある本や文献などを読むことで知識や教養を高め、人間としての幅を広げて下さい。知識や教養は、きっと皆さんの人生を楽しく豊かにするはずですよ。

Q.「技術英語をもっと早い時期にして欲しい」との要望がありました。

A 現行の技術英語は3年生の後期に開講されていますが、これは授業内容の進め方が3年生後期の研究室配属とリンクさせた形になっているためです。しかしながら、技術英語は新しいカリキュラムで新設された授業ですので、次回のカリキュラム見直し時に授業内容を含めた検討を実施したいと考えています。

Q.「現場見学を増やして欲しい」との要望がありました。

A 現段階では、コース主催の現場見学を増やすことは難しいと思われませんが、コースには研究室主催あるいは九州大学との連携プログラムである「持続的資源系人材育成プログラム」のフィールドトリップなどがあり、コース主催の他にも現場見学に参加するための選択肢があります。すなわち、自ら積極的に行動することで、現場見学を実施しながら外国人留学生や九州大学の学生と一緒にコミュニケーション能力、協調性、異文化への理解・接し方などを学ぶことができます。いつでも気軽に、コースの教員まで相談して下さい。

Q.「コースでの行事を増やして欲しい」との要望がありました。

A 当コースでは、学部生および大学院生と教員とのコミュニケーションを大切にしており、下記のような年間行事を予定しています。皆さん、もっと積極的に先輩、後輩、留学生、教職員とコミュニケーションをとって、大学生生活をエンジョイして下さい。

年間行事

4月 新2年生歓迎会	10月 見学会(2年生)	1月 工学部雪上綱引き大会
6月 大学祭 北工会運動会 資源杯大ソフトボール大会	11月 卒業論文中間発表会	2月 卒業論文発表会 追い出しコンパ
8月 オープンキャンパス 大学院入試	12月 研究室仮配属(3年生) 工学部卓球大会	3月 卒業式

新任の紹介



I am Elakneswaran YOGARAJAH from Sri Lanka. My nick name is Laknesh and people in Japan usually call me ラクネス. I came to Hokkaido University in 2004 as a master student from a very hot place. Living in Hokkaido is more than 30 °C climate change for me. Now, I used to live in Sapporo and this is my second home town. I started my master studies under the supervision of Prof. Toyoharu Nawa in the Laboratory of Eco Materials and Resources Engineering. After finishing it in 2006, I continued to PhD and got my PhD degree in 2009. My graduate studies mainly focused on multi-ionic transport and chemical interaction in cementitious materials and influence of interfacial properties on ion immobilization. I have used geochemical code PHREEQC throughout my graduate studies and have strong proficiency in the code. After finishing my PhD, I got JSPS postdoctoral fellowship and worked in Hokkaido University for two years under the supervision of Prof. Toyoharu Nawa and Prof. Tsutomu Sato. Then, I went to Tokyo University as a Research Associate and worked at Concrete Laboratory for more than two and half years. After that, I worked as a Research Engineer for more than one year at Technology Center, Taisei Corporation in Yokohama.

Currently, I am the new Assistant Professor in the Joint Program for Sustainable Resources Engineering (持続的資源系人材育成プログラム). My main duties will be working with students through the program. I look forward to work with Japanese and international students from our university and other universities not only in class room but field trips and group discussions also. My research vision is to contribute substantially to the science, technology, performance, and modelling of geologic and cementitious materials for sustainable development. I look forward to collaborate with students and other faculty members to do internationally competitive levels of research at Hokudai. In my free time, I am working out in the gym and visiting places with family. I am good at Japanese language. So, you can talk with me in either Japanese or English. You always welcome to visit me anytime in A4-52(2) and I look forward to assist you on your academic or non-academic activities.

新委員長から一言

この4月から委員長になりました川崎 了です。どうぞよろしくお願致します。私が当コースに勤務するようになったのは、今から13年前です。すなわち、今年で14年目になりますので、教育システム改善委員会とほぼ同じ年齢(?)ということになります。コースの過去13年間を振り返ってみると、当委員会が設置されてからコースのカリキュラムや講義の内容が、継続的によい方向へ改善されているように感じられます。これはひとえに、コースの卒業生そして皆さんのご協力によるものであると思っています。一方、大学の大きな使命の1つに教育がありますが、その「教育」とは「共育」であることを実感しています。すなわち、これまで以上に、講義を担当する教員側と講義を受ける学生側が共に学び成長する機会を大切にしながら、当コースの教育システムの改善に少しでもお役に立てるように努力していきたいと考えています。

今年は蝦夷梅雨による雨の日が多く、例年よりも涼しいと思っていました。が、いつの間にか北の大地にも夏が来たようです。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。資源循環システムコース・教育システム改善委員会は4月からメンバーが入れ替わり、新委員長として川崎先生、そして新たな委員として原田先生と中島先生という体制になりました。



川崎委員長

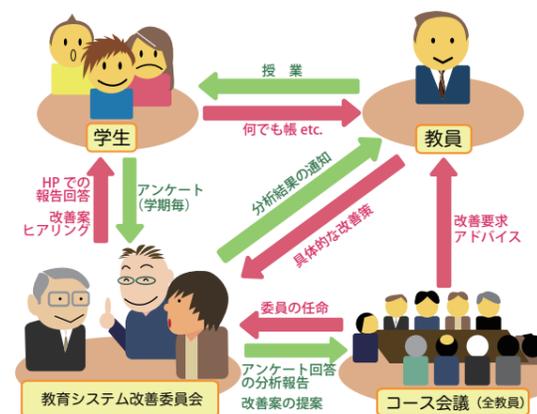


原田委員



中島委員

本コースにおける教育改善のしくみ



TEACHER OF THE YEAR 2014

毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として最も評価された科目の担当教員は、Teacher of the YearとしてコースHPに掲載されています。2014年度のTeacher of the Yearは、

「流体力学」原田 周作 先生

担当教員のコメント
板書ばかりの授業を評価してくれてとても嬉しいです。家にも黒板が欲しいと思っていますが、家族に反対されそうなので言い出せません。これから手を抜かず精進していきたいと思ひます。

この科目に寄せられたコメントは

- ・難しいが、わかりやすかった。
- ・板書がわかりやすく理解しやすかった。
- ・演習が多くわかりやすかった。
- ・時々ためになる雑談などもあり、飽きなかった。 …など



も良くて、都会から自然まで幅広くあり、とても住み心地のいい街だと思ひます。道路の幅が広く、二方通行が多い。チャリンコも多い。サッポロクラシックがとても美味しいことを知った(日によってはエビスを越す)。
北大について キャンパス内の緑がきれい。飲食店・駅・繁華街までがすぐ近い。工学部の建物の中に、生協・学食・学部図書館・床屋・卓球場が入っている。驚いた。
北大・資源について 研究分野が非常に幅広い。学生が廊下でよく挨拶してくれる。コースの一体感がすごい。全てのイベント事がパワフル。
自分のモットー 熱く、しぶとく。

好きなもの ヨックモック
改善委員会特別賞
アンケート結果を踏まえ、2014年度はTeacher of the Yearとは別に、授業の内容や方法に顕著な工夫や改善が見られると評価された科目の担当教員に対し、教育システム改善委員会特別賞を贈ることにしました。その担当教員は、「構造力学I」 児玉 淳一 先生
「この度はこのような栄えある賞をいただき、教育システム改善委員会の皆様にお礼申し上げます。構造力学では、地下空洞も含めた構造物の安全設計のために、数式を駆使して許容外力を正確に求めたり、構造力学を学ぶにはもう一つ重要なことがあると考えています。それは「想像力」です。外力が作用したときに、構造物がどのように変形し、また、どの部分でどのような力が発生し、それが大切で、自分イメーजして付けた「想像力」が「創造力」にも繋がっていくことを期待しています。(児玉先生談)
「この科目に寄せられたコメント」
・演習を多く取り入れてくれたおかげで、問題に慣れる事が出来た。
・演習問題が解説つきであったので勉強しやすかった。
・説明↓演習↓復習(応用)の流れがよかったです。 …など」



講義評価アンケート返版

第十号
三千十五年七月号
発行元 教育システム改善委員会

資源循環システムコース